新専門医制度
りんくう総合医療センター
内科専門研修プログラム ２０２７年度



2026/4/1

地方独立行政法人
りんくう総合医療センター

目次

１.理念・使命・特性 ..... - 1 -

２.募集専攻医数 ..... - 5 -

３.専門知識・専門技能とは ..... - 7 -

４.専門知識・専門技能の習得計画 ..... - 8 -

５.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス ..... - 13 -

６.リサーチマインドの養成計画 ..... - 13 -

７.学術活動に関する研修計画 ..... - 14 -

８.コア・コンピテンシーの研修計画 ..... - 14 -

９.地域医療における施設群の役割 ..... - 15 -

１０.地域医療に関する研修計画 ..... - 16 -

１１.内科専攻医研修（モデル） ..... - 17 -

１２.専攻医の評価時期と方法 ..... - 19 -

１３.専門研修プログラム管理委員会の運営計画 ..... - 22 -

１４.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画 ..... - 24 -

１５.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理） ..... - 24 -

１８.内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、 プログラム外研修の条件 ..... - 27 -

１９．りんくう総合医療センター内科専門研修施設群 ..... - 28 -

１）専門研修基幹施設 ..... - 32 -

りんくう総合医療センター ..... - 32 -

２）専門研修連携施設 ..... - 35 -

１．大阪労災病院 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。

２．国立病院機構大阪南医療センター ..... - 37 -

３．堺市立総合医療センター ..... - 41 -

４．市立貝塚病院 ..... - 44 -

５．近畿中央胸部疾患センター ..... - 46 -

６．大阪大学医学部附属病院 ..... - 48 -

７．大阪急性期・総合医療センター - 50 -

８．大阪医療センター - 52 -

９．兵庫県立西宮病院 - 55 -

１０．市立西宮中央病院 - 58 -

１１．和歌山労災病院 - 61 -

りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会名簿 ..... - 93 -

１.理念・使命・特性

＜理念＞

１） 本プログラムは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院である地方独立行政法人りんくう総合医療センターを基幹施設として、大阪府泉州医療圏および近隣の南大阪医療圏にある連携施設とで病院群を形成し、その中で内科専門医を育成します。本プログラムを通じて専攻医は、内科専門医としての基本的臨床能力を獲得するだけでなく、泉州を含む南大阪地区の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療をも行えるように訓練されます。

２） 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での３年間（原則基幹施設２年間＋連携施設１年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して、可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験していくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

【整備基準１】

＜使命＞

１） 大阪府泉州地域を含む南大阪医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、

① 高い倫理観を持ち、
② 最新の標準的医療を実践し、
③ 安全な医療を心がけ、
④ プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専

門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時に、チーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2） 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3） 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4） 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

【整備基準２】

＜特性＞

1） 本プログラムは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院である地方独立行政法人りんくう総合医療センターを基幹施設として、大阪府泉州地域を含む南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は原則として基幹施設２年間＋連携施設１年間の３年間になります。

2） りんくう総合医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3） 基幹施設である地方独立行政法人りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。特に、りんくう総合医療センターは大阪府立泉州救命救急センターと統合し、三次救急の多数の症例を近隣から受け入れています。さらに、我が国に 4 施設しかな

い特定感染症指定医療機関でもあり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）も含めた最先端の感染症の診療を経験することができます。また、関西空港に隣接することから、医療通訳者を多数育て、入国される外国人と在住外国人に対する診療サポートを行う国際センターもあり、外国人診療という貴重な経験を積むことも可能です。

4） 基幹施設である地方独立行政法人りんくう総合医療センターと連携施設での２年間（専攻医２年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。さらに、臨床研修センターにおいて、不足症例をリアルタイムに把握し、優先的に割り当てることにより、56 疾患群、160 症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することを目指します。そして、専攻医２年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（別表１「各年次到達目標」参照）。

5） りんくう総合医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則専門研修期間内の１年間、専門領域や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

6） 基幹施設である地方独立行政法人りんくう総合医療センターでの通算２年間と専門研修施設群での１年間（専攻医３年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（別表１「各年次到達目標」参照）。

専門研修後の成果

内科専門医の使命は、① 高い倫理観を持ち、② 最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④ プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

１）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
２）内科系救急医療の専門医
３）病院での総合内科（Generality）の専門医

４）総合内科的視点を持ったSubspecialistに合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

地方独立行政法人りんくう総合医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養とGeneral なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、大阪府泉州地域を含む南大阪医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はSubspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

【整備基準３】

２.募集専攻医数

下記１）～10）により、地方独立行政法人りんくう総合医療センター内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は１学年５名とします。

１）　りんくう総合医療センター内科専攻医数は、現在３学年併せて６名です。

２）　剖検体数は 2017 年度は７体、2018 年度は 14 体、2019 年度は 10 体、2020 年度は９体、2021 年度は９体、2022 年度は４体、2023 年度は８体、2024 年度９体、2025 年度は 10 体です。

３）　基幹施設である地方独立行政法人りんくう総合医療センターの診療科別診療実績を以下の表に示します。

＜表１．2025 年度 りんくう総合医療センター診療科別診療実績＞

診療科	入院延患者数	外来延患者数
総合内科・感染症内科	4,791	3,825
内分泌代謝内科	2,385	10,361
腎臓内科	5,822	11,878
血液内科	9,888	8,772
神経内科	0	2,414
循環器内科	11,900	19,104
消化器内科	7,983	18,843
呼吸器内科	0	2,052

（延人数/年）

りんくう総合医療センターは地域基幹病院であり、上記の診療科領域における多数の専門的な症例のみならず、多くのコモンディジーズや関連する非専門領域の疾患を診療しています。特に、循環器内科では病院内の泉州救命救急センターに搬送されてくる多くの急性期の症例を経験することができます。また、糖尿病、甲状腺疾患を中心に診療する内分泌代謝内科でも数多くの症例を経験することができます。

４）　消化器内科は、消化器病指導医三人（内、内視鏡指導医二人、肝臓専門医一人）の体制のもと救急科や外科等各部門との連携のうえ、幅広い消化器病疾患の診療にあたっています。１学年５名に対し十分な症例を経験可能です。

５）　血液内科では白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫をはじめとする造血器腫瘍や再生不良性貧血、血小板減少性紫斑病など幅広く血液疾患を診療しており、特に造血器腫瘍に対しては造血幹細胞移植療法を積極的に行っています。１学年５名に対し十分な症例を経験可能です。

６）　脳卒中患者は脳神経外科とも連携して治療に当たっています。脳卒中を除く神経領域の入院患者は、外来患者診療を含め、１学年５名に対し十分な症例を経験可能です。

７）　総合内科・感染症内科では各種の膠原病疾患、肺炎、間質性肺炎、肺癌の化学療法などの呼吸器疾患に関して幅広い診療も実施しており、１学年５名に対し十分な症例を経験可能です。

８）　りんくう総合医療センター内科専門研修施設群として、13 領域の専門医が各領域で１名以上在籍しています（「りんくう総合医療センター内科専門研修施設群」参照）。

９）　１学年５名までの専攻医であれば、専攻医２年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた４５疾患群、１２０症例以上の診療経験と２９病歴要約の作成は達成可能です。さらに、臨床研修センターにおいて、不足症例をリアルタイムに把握することにより、５６疾患群、１６０症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することを目指すことが可能です。

１０）専攻医２年目に研修する連携施設には、地域基幹病院 17 施設および高次機能・専門病院４施設、大学病院３施設の計 24 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

11）　専攻医３年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも５６疾患群、１６０症例以上の診療経験は達成可能です。

【整備基準２７】

３.専門知識・専門技能とは

１）専門知識

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。[「内科研修カリキュラム項目表」参照]

【整備基準４】

２）専門技能

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のSubspecialty専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。[「技術・技能評価手帳」参照]

【整備基準５】

４.専門知識・専門技能の習得計画

１）到達目標

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全７０疾患群を経験し、２００症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。（別表１「各年次到達目標」参照）

〇専門研修（専攻医）１年：

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める７０疾患群のうち、少なくとも２８疾患群、８０症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録することを目指します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- 専門研修修了に必要な病歴要約を１５症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。
- 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる３６０度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

〇専門研修（専攻医）２年：

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める７０疾患群のうち、通算で少なくとも４５疾患群、１２０症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録します。さらに、教育研修委員会において、不足症例をリアルタイムに把握し、優先的に割り当てることにより、５６疾患群、１６０症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することを目指します。
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)への登録を終了します。
- 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる３６０度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）１年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

〇専門研修（専攻医）３年：

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全７０疾患群を経験し、２００症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低５６疾患群以上の経験と計１６０症例以上（外来症例は１割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録します。

・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。

・既に専門研修２年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。

・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる３６０度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）２年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約２９症例の受理と、少なくとも７０疾患群中の５６疾患群以上で計１６０症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

りんくう総合医療センター内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設通算２年間＋連携１年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を１年単位で延長します。

一方で、カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。後に示すりんくう総合医療センター内科専門医研修プログラムの

概略の表に示すように、専門研修３年目から（経験症例の進捗を鑑み、専門研修２年目からの選択も可能です。）サブスペ研修を開始するサブスペ重点コースを選択できます。このため、内科研修とSubspecialty研修とをつなぐチューターを立て、Subspecialty研修の研修レベルのチェックを行います。

【整備基準８～１０】

２）臨床現場での学習

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を７０疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑤参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

① 内科専攻医は、担当指導医もしくはSubspecialtyの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

② 定期的（毎週１回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンス（月一回）を通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

③ 総合内科外来（スクリーナー外来：初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週１回、１年以上担当医として経験を積みます。

④ 救急外来（平日日勤帯）で内科領域の救急診療の経験を積みます。

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。

⑥ 要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

【整備基準１３】

３）臨床現場を離れた学習

１）内科領域の救急対応、２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、４）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、５）専攻医の指導・評価方法に関

する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

① 定期的（毎週１回程度）に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（2025 年度実績 9 回）
※内科専攻医は年に②の重要講習会の受講は必須です。参加できなかった場合には e-learning ができます。
③ CPC（2025 年度実績８回）
④ 研修施設群合同カンファレンス（2026 年度：年２回開催予定）
⑤ 地域参加型カンファレンス：りんくう生涯教育セミナー（2025 年度実績６回）
⑥ JMECC 受講（2025 年度当院にて開催実績 1 回）
※内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに１回受講します。
⑦ 内科系学術集会（後述「7．学術活動に関する研修計画」参照）
⑧ 各種指導医講習会／JMECC 指導者講習会

【整備基準１４】

4）自己学習

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルをＡ（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）とＢ（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルをＡ（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、Ｂ（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、Ｃ（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルをＡ（主担当医として自ら経験した）、Ｂ（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、Ｃ（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

【整備基準１５】

5）研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

・専攻医は全７０疾患群の経験と２００症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低５６疾患群以上１６０症例の研修内容を登録

します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

- 専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全２９症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

【整備基準４１】

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス

りんくう総合医療センター内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した(「りんくう総合医療センター内科専門研修施設群」参照)。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設であるりんくう総合医療センター教育研修委員会が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

【整備基準１３、１４】

6.リサーチマインドの養成計画

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

りんくう総合医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM；evidence based medicine)。
③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習)。
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて

⑥ 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
⑦ 後輩専攻医の指導を行う。
⑧ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

【整備基準６、１２、３０】

7.学術活動に関する研修計画

りんくう総合医療センター内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、下記①～④を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

① 内科系の学術集会や企画に年２回以上参加します（必須）。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
④ 内科学に通じる基礎研究を将来行えるような臨床研究を行います。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表を筆頭者として２件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

【整備基準１２】

8.コア・コンピテンシーの研修計画

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

りんくう総合医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与え、内科専門医として高い倫理観と社会性の獲得を図ります。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設であるりんくう総合医療センター教育研修委員会が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）

⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

【整備基準７】

９.地域医療における施設群の役割

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。りんくう総合医療センター内科専門研修施設群研修施設は大阪府泉州医療圏および近隣の南大阪医療圏にある医療機関から構成されています。

りんくう総合医療センターは、大阪府南大阪泉州医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、専門領域の異なる急性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である大阪大学医学部附属病院、大阪南医療センター、近畿中央呼吸器センター、大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、地域基幹病院である大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立貝塚病院、兵庫県立西宮病院、西宮市立中央病院、和歌山労災病院、松江赤十字病院、隠岐病院で構成しています。特別連携施設として、いとうまもる診療所にて在宅医療を中心に経験できます。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療を担当するりんくう総合医療センターに不足する専門領域の内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、りんくう総合医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

【整備基準１１、２８】

１０.地域医療に関する研修計画

りんくう総合医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

りんくう総合医療センター内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

【整備基準２８、２９】

１１.内科専攻医研修（モデル）

（図１）

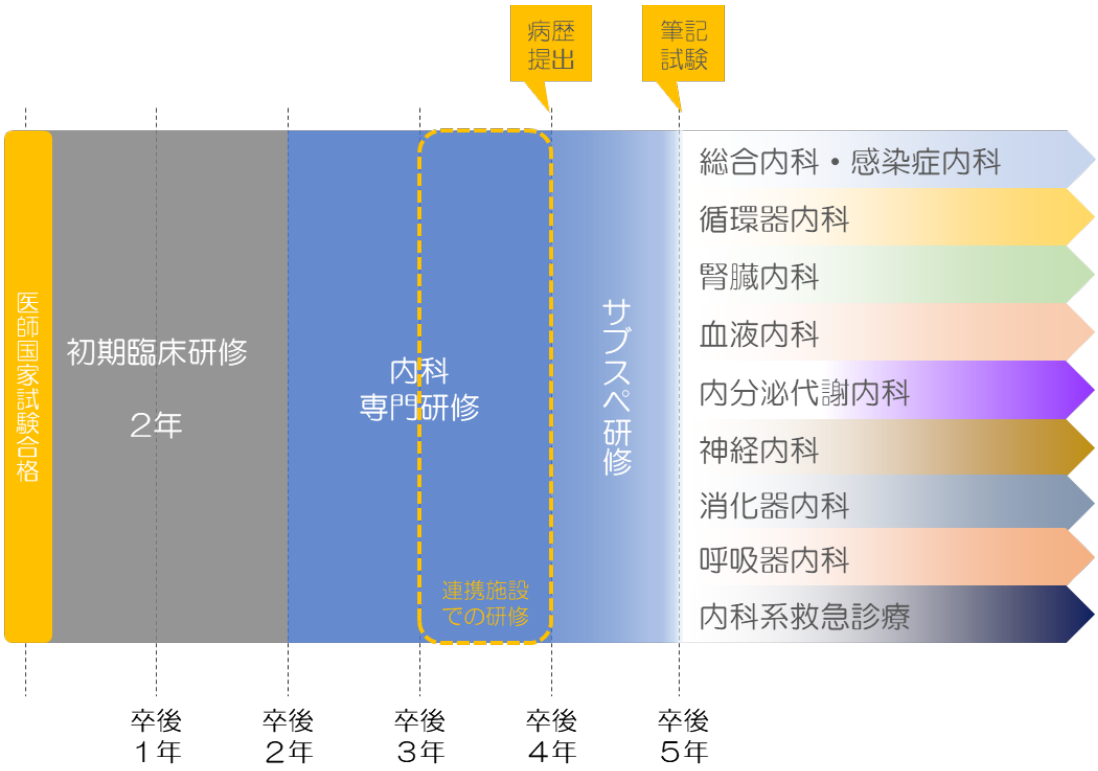


図１に研修コースの典型例を示します。

基幹施設であるりんくう総合医療センター内科で専門研修（専攻医）１年目、連携病院において２年目の計２年間の内科専門研修を行います。

専攻医２年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる３６０度評価（内科専門研修評価）などをもとに、専門研修（専攻医）３年目のコースを調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）３年目の１年間、原則的に基幹施設であるりんくう総合医療センターで内科専門研修を継続しつつ、Subspecialty 研修を開始します（個々人により異なります）。さらに、内科全般的な研修を継続する場合や、近い将来に大学における研究を希望する場合は、個々の希望に応じて選択できます。

りんくう総合医療センター内科専門研修プログラムの概略

＜専門研修１年＞

内科研修１：院内の内科系診療科をローテート

・教育研修委員会にて不足症例を把握し優先的に割り当てる

・原則は総合内科・感染症内科（膠原病内科含む）、循環器内科、血液内科、腎臓内科、内分泌代謝内科、消化器内科より各２ヶ月、内科系救急疾患は年間を通じて救急外来にて適宜担当します。

＜専門研修２年＞

内科研修２：連携施設の内科系診療科をローテート

大阪労災病院、国立病院機構南大阪医療センター、
堺市立総合医療センター、近畿中央呼吸器センター、
市立貝塚病院、大阪大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、
大阪南医療センター、兵庫県立西宮病院、市立西宮中央病院、
和歌山労災病院、隠岐病院、日本生命病院、市立豊中病院、住友病院
大阪けいさつ病院、吹田市民病院、箕面市立病院、市立池田病院、
川崎病院、神戸掖済会病院、近畿大学奈良病院、兵庫医科大学病院
松江赤十字病院

＜専門研修３年＞

進路別研修

１．サブスペ重点コース：院内診療科の１つで重点的に研修する。経験症例の進捗を鑑み、専攻医２年目からの選択も可能である。

２．内科全般コース：院内の複数の診療科で全般的な研修、特別連携施設（いとうまもる診療所）での３ヶ月の在宅医療研修を含む

基本的な考え方

・前半の２年間で修了基準の５６疾患群、１６０症例の登録をめざし、３年目は４年目以降の進路に応じて選択できるようにする。
・このため、教育研修委員会において専攻医ごとに不足する症例をリアルタイムに把握し、優先的に割り当てるようにする。
・連携施設での研修は１施設６ヶ月を原則とし、不足する疾患群が研修可能な施設を選択する。
・関連施設の選択と手続き等について、教育研修委員会が専攻医・指導医と密接な連絡をとりながら調整する。

【整備基準１６】

１２.専攻医の評価時期と方法

１）りんくう総合医療センター教育研修委員会の役割

- りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行います。
- りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ３か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ６か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ６か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 年に複数回（８月と２月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を通じて集計され、１か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- 教育研修委員会は、メディカルスタッフによる３６０度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（８月と２月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員５人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して５名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

2）専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医１人に１人の担当指導医（メンター）がりんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
- 専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 専攻医は、１年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める７０疾患群のうち２０疾患群、６０症例以上の経験と登録を行うようにします。２年目専門研修終了時に７０疾患群のうち少なくとも４５疾患群、１２０症例以上の経験と登録を行い、５６疾患群、１６０症例の登録をめざします。３年目専門研修終了時には７０疾患群のうち５６疾患群、１６０症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 専攻医は、専門研修（専攻医）２年修了時までに２９症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。担当指導医は専攻医が合計２９症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）３年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

3）評価と検討

評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとにりんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

4）修了判定基準

① 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて研修内容を評価し、以下ｉ）～vi）の修了を確認します。

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全７０疾患群を経験し、計２００症例以上（外来症例は２０症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低５６疾患群以上の経験と計１６０症例以上の症例（外来症例は登録症例の１割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P.４３別表１「りんくう総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ⅱ）２９病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

ⅲ）所定の２編の学会発表または論文発表

ⅳ）JMECC 受講

ⅴ）プログラムで定める講習会受講

ⅵ）日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いてメディカルスタッフによる３６０度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

② りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約１か月前にりんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

５）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。なお、「りんくう総合医療センター内科専攻医研修マニュアル」【整備基準４４】（P.３５）と「りんくう総合医療センター内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準４５】（P.４０）と別に示します。

【整備基準１７、１９～２２、５３】

１３.専門研修プログラム管理委員会の運営計画

（「りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

１）りんくう総合医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

ⅰ）内科専門研修プログラム管理委員会（専門医研修プログラム準備委員会から 2017 年度に移行）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（総合内科・感染症内科主任部長）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科部長など）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会参照）。りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を、りんくう総合医療センター教育研修委員会におきます。

ⅱ）りんくう総合医療センター内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長１名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年６月と１２月に開催するりんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年４月３０日までに、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

①前年度の診療実績
- ａ）病院病床数
- ｂ）内科病床数
- ｃ）内科診療科数
- ｄ）１か月あたり内科外来患者数
- ｅ）１か月あたり内科入院患者数
- ｆ）剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数
- ａ）前年度の専攻医の指導実績
- ｂ）今年度の指導医数/総合内科専門医数
- ｃ）今年度の専攻医数
- ｄ）次年度の専攻医受け入れ可能人数

③前年度の学術活動
- ａ）学会発表
- ｂ）論文発表

④施設状況

ａ）施設区分
ｂ）指導可能領域
ｃ）内科カンファレンス、
ｄ）他科との合同カンファレンス
ｅ）抄読会
ｆ）机
ｇ）図書館
ｈ）文献検索システム
ｉ）医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会
ｊ）JMECC の開催。

⑤Subspecialty 領域の専門医数

日本循環器学会循環器専門医５名
日本消化器病学会認定専門医５名
日本腎臓病学会専門医４名
日本血液学会血液専門医３名
日本感染症学会専門医２名
日本リウマチ学会専門医２名
日本糖尿病学会専門医２名
日本呼吸器学会専門医１名
日本アレルギー学会専門医１名
日本神経学会専門医１名
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医１名
日本集中治療医学会専門医１名

【整備基準３４、３５、３７～３９】

１４.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修(FD)の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。

【整備基準１８、４３】

１５.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）１年目、３年目は基幹施設であるりんくう総合医療センターの就業環境に、専門研修(専攻医)２年目は連携施設の就業環境に基づき、就業します（「りんくう総合医療センター内科専門研修施設群」参照)。

基幹施設であるりんくう総合医療センターの整備状況

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 地方独立行政法人の非常勤医師（医師免許取得後 6 年目からは常勤医師）として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
- ハラスメント委員会が院内に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.28「りんくう総合医療センター内科専門施設群」に記載されています。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容はりんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告されます。そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、問題が生じた際には適切に改善を図ります。

【整備基準４０】

１６.内科専門研修プログラムの改善方法

１）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

２）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

①即時改善を要する事項
②年度内に改善を要する事項
③数年をかけて改善を要する事項
④内科領域全体で改善を要する事項
⑤特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会に相談していただきます。

- 担当指導医、施設の内科研修委員会、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断してりんくう総合医療センター内科専門研修プログラムを評価します。
- 担当指導医、各施設の内科研修委員会、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

３）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

りんくう総合医療センター臨床研修センターとりんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じてりんくう総合医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います。

りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

【整備基準４８～５１】

１７.専攻医の募集および採用の方法

本プログラムへの応募者は、りんくう総合医療センター臨床研修センターの website のりんくう総合医療センター医師募集要項（りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。

書類選考および面接を行い、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）りんくう総合医療センター教育研修委員会

E-mail: rinkudrs-concierge@rgmc.izumisano.osaka.jp

HP: http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/

りんくう総合医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にて登録を行います。

【整備基準５２】

１８.内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いてりんくう総合医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムからりんくう総合医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域からりんくう総合医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらにりんくう総合医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が ６ ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（１日８時間、週５日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

【整備基準３３】

１９．りんくう総合医療センター内科専門研修施設群

研修期間：３年間（基幹施設２年間＋連携施設１年間）

表２.りんくう総合医療センター内科専門研修施設群研修施設

	病院名	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科系指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	りんくう総合医療センター	388	123	8	12	15	10
連携施設	大阪労災病院	678	205	6	16	26	6
連携施設	大阪南医療センター	384	243	12	32	31	7
連携施設	堺市立総合医療センター	480	192	10	32	26	7
連携施設	市立貝塚病院	249	64	7	5	6	0
連携施設	近畿中央呼吸器センター	365	354	15	20	17	1
連携施設	大阪大学医学部附属病院	1,086	326	9	135	135	13
連携施設	大阪急性期・総合医療センター	865	259	9	36	32	7
連携施設	大阪医療センター	605	269	9	30	31	5
連携施設	和歌山ろうさい病院	303	106	7	11	4	2
連携施設	兵庫県立西宮病院	400	159	10	25	16	3
連携施設	西宮市立中央病院	257	81	5	17	10	2
連携施設	松江赤十字病院	599	241	8	24	15	3
連携施設	隠岐病院	115	59	3	0	0	0
連携施設	日本生命病院	350	144	7	14	17	7
連携施設	市立豊中病院	549	213	7	25	24	8
連携施設	大阪けいさつ病院	650	271	8	19	25	5
連携施設	吹田市民病院	431	180	7	25	21	4
連携施設	箕面市立病院	317	150	5	12	1	0
連携施設	市立池田病院	364	194	8	23	20	2
連携施設	川崎病院	278	170	6	17	19	2
連携施設	神戸掖済会病院	325	192	9	5	6	3
連携施設	近畿大学奈良病院	510	―	9	15	13	9
連携施設	兵庫医科大学病院	897	283	10	58	59	9
研修施設合計		6,875	2,408	104	409	328	72

表３.各内科専門研修施設の内科１３領域の研修の可能性

	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
りんくう総合医療センター	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○
大阪労災病院	○	○	○	○	○	○	△	X	○	△	△	○	○
大阪南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
堺市立総合医療センター	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○
市立貝塚病院	△	○	○	△	△	△	×	×	○	×	×	×	△
近畿中央呼吸器センター	△	×	×	×	×	×	○	×	×	△	△	△	×
大阪大学医学部附属病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△
大阪急性期・総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
和歌山ろうさい病院	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△	×	△	○
兵庫県立西宮病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西宮市立中央病院	○	○	○	○	○	△	○	×	×	○	○	○	○
松江赤十字病院	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	△	△	○
隠岐病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○
日本生命病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立豊中病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪けいさつ病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
吹田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
箕面市立病院	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	×	○	○
市立池田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
川崎病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○
神戸掖済会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
近畿大学奈良病院	△	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	△	○
兵庫医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各研修施設での内科１３領域における診療経験の研修可能性を３段階（○、△、×）に評価しました。（○：研修できる、△：一部経験できる、×：ほとんど経験できない）

専門研修施設群の構成要件

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。りんくう総合医療センター内科専門研修施設群研修施設は大阪府泉州医療圏および近隣医療圏の医療機関から構成されています。

りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設は、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である大阪大学医学部附属病院、大阪南医療センター、近畿中央呼吸器センター、大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、兵庫医科大学病院、地域基幹病院である大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立貝塚病院、兵庫県立西宮病院、西宮市立中央病院、和歌山労災病院、松江赤十字病院、隠岐病院、日本生命病院、市立豊中病院、大阪けいさつ病院、吹田市民病院、箕面市立病院、市立池田病院、川崎病院、神戸掖済会病院、近畿大学奈良病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、りんくう総合医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。

また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

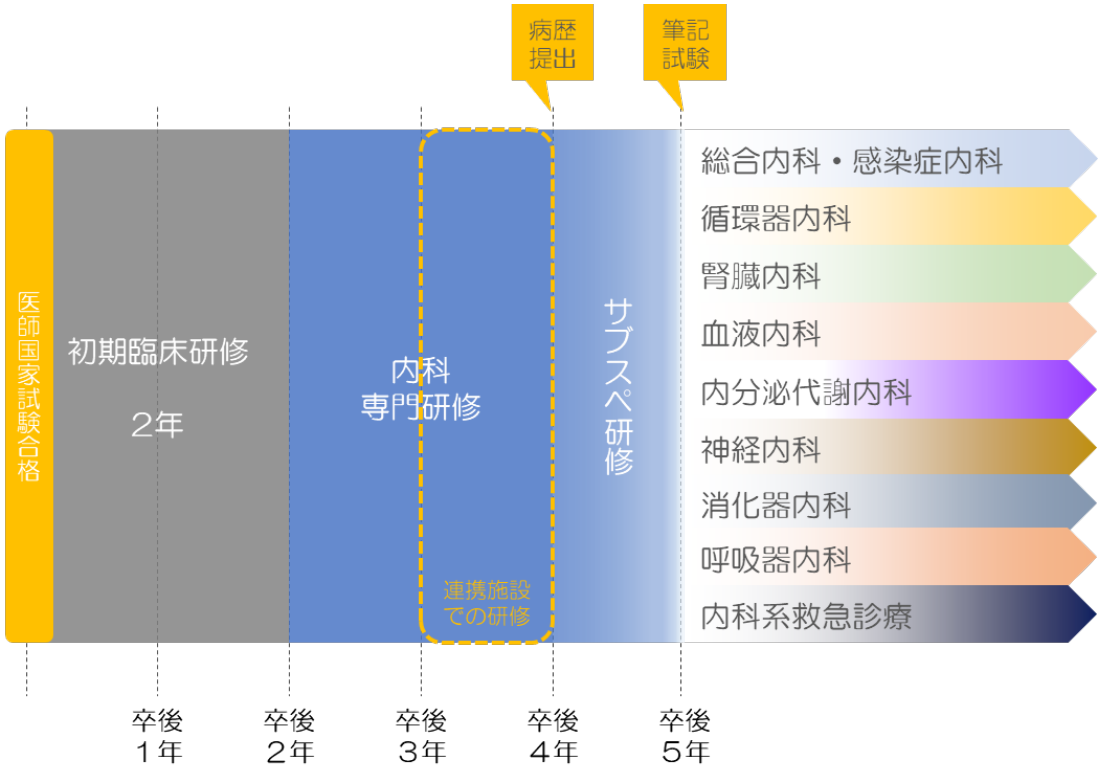
専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

専攻医１年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。

専攻医２年目の１年間、連携施設で研修をし、病歴提出を終えます（図１、再掲）。専攻医３年目は、原則的に Subspecialty 研修を内科専門研修と並行して開始します（個々人により異なります）。

【整備基準２５】

（図１）



専門研修施設群の地理的範囲

当院が位置する泉州二次医療圏の近隣医療圏、また隣県である兵庫県、和歌山県を含めた他県の施設から構成しています。医師少数区域での研修として島根県の連携施設にて研修を行うことも可能です。

【整備基準２６】

１）専門研修基幹施設

りんくう総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・りんくう総合医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）を設置しています。 ・「地方独立行政法人りんくう総合医療センターハラスメント防止要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、法人運営本部内部統制課が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する研修棟の敷地内に院内保育所あり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は12名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催（2025 年度実績９回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（りんくう生涯教育セミナー、りんくう循環器ネットワーク研究会、りんくう糖尿病病診連携の会、泉州 COPD フォーラム、泉州消化器フォーラム、南泉州神経フォーラムなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修委員会が対応します。

認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも11分野以上）で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に治験委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表を行っています。
指導責任者	倭正也 【内科専攻医へのメッセージ】 りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、さらに、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもった内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、 日本循環器学会循環器専門医５名、 日本不整脈心電学会専門医１名、 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)専門医１名、 日本消化器病学会認定専門医５名、 日本消化器内視鏡学会専門医５名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医４名、 日本腎臓病学会専門医４名、日本透析医学会専門医３名、 日本高血圧学会専門医１名、日本血液学会血液専門医３名、 日本造血・免疫細胞療法学会認定医１名、 日本輸血細胞治療学会認定管理師１名、 日本感染症学会専門医２名、日本リウマチ学会専門医２名 日本呼吸器学会専門医１名、日本呼吸器内視鏡学会専門医１名、 日本アレルギー学会専門医１名、日本神経学会専門医１名、

	日本救急医学会救急科専門医 1 名、 日本集中治療医学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本甲状腺学会専門医 1 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 JMECC ディレクター1 名　ほか
外来・入院患者数 (内科系)	外来患者　6,437　名（平均延数／月） 新入院患者　3,564　名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本IVR学会IVR専門医修練認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設・指導医指定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設　など

2）専門研修連携施設

1.大阪労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・臨床検査科部長）、プログラム管理者（特任院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 44 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など； 2025 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。

認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度６体、2024 年度実績７体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績６回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 19 演題）をしています。
指導責任者	山内　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本消化器病学会消化器指導医９名、日本内分泌学会指導医３名、日本人間ドック学会指導医１名、日本糖尿病学会指導医３名、日本腎臓学会指導医３名、日本老年医学会指導医１名、日本消化器内視鏡学会指導医５名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医６名、日本透析医学会指導医３名、日本心血管インターベンション治療学会指導医１名、日本神経学会神経内科指導医１名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 32,880 名（1 ヶ月平均）　入院患者 16,776 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本神経学会認定准教育施設　など

2．国立病院機構大阪南医療センター

認定基準 [整備基準 23] 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構期間職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が管理課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 23] 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 21 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績７回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科学習集談会、内科系診療科分野別地域合同カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 4 回、連携施設の大阪労災病院、りんくう総合医療センターで合同開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理室が対応します。 ・特別連携施設（樫本病院、寺元記念病院）の専門研修では、電話や週 1 回の大阪南医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 [整備基準23/31] 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 6 体　2023 年度 6 体　2024 年度　7 体）を行っています。
認定基準 [整備基準 23] 学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室、研究室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度 4 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	大島　至郎 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪南医療センターは、大阪府南河内医療圏の中心的な急性期病院であり、南河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで

	経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医３名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器病専門医２名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医２名 日本消化管学会胃腸科専門医１名 日本循環器学会循環器専門医４名 日本喘息学会喘息専門医１名 日本不整脈心電学会不整脈専門医１名 日本脳卒中学会脳卒中専門医２名 日本内分泌学会専門医１名 日本超音波医学会超音波専門医１名 日本神経学会神経内科専門医１名 日本集中治療専門医学会集中治療専門医１名 日本核医学会核医学専門医１名 日本アレルギー学会アレルギー専門医１名
外来・入院患者数 （内科系）	外来延患者数 102,507 名 （ 8,542 名/月） 新入院延患者　 4,770 名 （ 397.5 名/月）※2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本胆道学会認定指導医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設証 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設証 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

3.堺市立総合医療センター

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・堺市立総合医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するためヘルスケアサポートセンターを設置しています。 ・「地方独立行政法人堺市立病院機構ハラスメントの防止等に関する要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、内部統制室が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する職員寮の敷地内に院内保育所、病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は32名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会において、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会などを定期的に開催（2025年度実績eラーニング6回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025年度実績18症例）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（2025年度実績４回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度自施設内開催実績１回）を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、指導医の連携施設への訪問に加えて電話や週1回の堺市立総合医療センターでの面談・カンファレ

	ンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域のうち内分泌を除くほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025年度実績13体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、自習室、ソフトウエアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025年度実績12回）しています。 ・臨床研究推進室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2025年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会には、14演題(2025年度)の学会発表をしています。
指導責任者	西田幸司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科の理念 1. 堺市二次医療圏の中核病院として急性期医療を担うことで地域医療に貢献する。 2. 優秀な内科医を育み、日本の医療に貢献する。 私が育てたい内科医は「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」です。自らの専門分野にとどまることなく、患者さんが抱えている問題を大きく把握し、優先順位を考えることで、その方に最適な医療を提供できる医師。それが、超高齢社会の日本で求められる内科医像だと考えます。そのためには、基礎的な内科力と総合的な判断力が必要です。当院では20年以上前から内科専攻医を受け入れ、ローテートシステムにより内科の土台作りを行ってきました。全国の「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」を目指す専攻医の皆さんとともに診療できる日を心待ちにしております。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医 28 名、 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、 日本肝臓病学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、 日本透析医学会専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 4 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名、日本脳卒中学会専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者17,861名（平均延数／月）　新入院患者1,181名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本麻酔科学会認定病院 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会認定施設

	日本臨床細胞学会認定教育研修認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本IVR学会認定専門医修練認定施設 日本てんかん学会認定研修施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本糖尿病学会認定教育研修認定施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設

4．市立貝塚病院

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・会計年度任用職員（医師）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があり、基幹施設と連携が可能です。 ・ハラスメント対策委員会として、ハラスメント防止委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は５名在籍しています。 ・研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績６回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、開催が困難な場合は基幹施設で行われるCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 12 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 [整備基準 24] 4）学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 17 演題）をしています。
指導責任者	中　聡夫 【内科専攻医へのメッセージ】 市立貝塚病院は、泉州医療圏の急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医２名、日本内科学会総合内科専門医６名、 日本内科学会総合内科指導医２名、日本内科学会専門医２名、 日本消化器病学会消化器専門医６名、 日本消化器病学会消化器指導医２名、日本肝臓病学会専門医４名、 日本肝臓病学会指導医２名、日本循環器学会循環器専門医１名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医１名、 日本消化器内視鏡学会専門医５名、 日本消化管学会胃腸科専門医１名、 日本消化管学会胃腸科指導医１名、 日本神経学会神経内科専門医１名、 日本神経学会神経内科指導医１名、 日本脳卒中学会脳卒中専門医１名、 日本認知症学会認知症専門医１名
外来・入院 患者数（内科系）	外来患者 3,990 名（平均延数／月） 入院患者 2,038 名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 8 領域、54 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会教育関連病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本肝臓学会専門医認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設 日本緩和医療学会認定研修施設　　など

5．近畿中央呼吸器センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。 ・研修に必要なインターネット環境（電子ジャーナル閲覧可）があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医、管理課労務担当）があります。 ・ハラスメント防止に関する規程が整備されており、相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 20 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、呼吸器および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 1 回）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2024 年度実績 1 演題）をしています。 ・臨床試験審査委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験受託研究審査委員会を開催（2022 年度実績 11 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	滝本　宜之 【内科専攻医へのメッセージ】 近畿中央胸部疾患センターは、全国でも屈指の呼吸器専門病院であり、基幹施設である耳原総合病院と連携して内科専門研修を行い、胸部レントゲンや CT をみてしっかりと疾患の鑑別ができる内科専

	門医の育成を目指します。我々と一緒に学びませんか？熱意のある方、大歓迎です。
指導医数 （常勤）	日本呼吸器学会呼吸器指導医９人、呼吸器学会呼吸器専門医 20 人 日本感染症学会感染症指導医２人、 日本感染症学会感染症専門医２人 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医３人 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医２人、 がん治療認定機構がん治療指導医１人 がん治療認定医機構がん治療認定医６人、 日本アレルギー学会専門医２人、 日本呼吸器内視鏡学会指導医４人、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 13 人 日本内科学会総合内科指導医 20 人、 日本内科学会総合内科専門医 17 人、内科専門医１人、 日本循環器学会循環器専門医１人、 日本緩和医療学会緩和医療専門医１人 日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医 １人
外来・入院患者数 （内科系）	外来患者 4,008 名（平均延数／月） 入院患者 364 名（平均数／月）（2024 年度実績）
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、呼吸器疾患、感染症の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2）研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1）日本屈指の呼吸器専門病院において、呼吸器疾患の診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、など、幅広い呼吸器診療を経験できます。 2）技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育特殊施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本病理学会 研修認定施設 日本臨床細胞学会 認定施設など

6. 大阪大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 •非常勤医員として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 •ハランスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 •病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 82 名在籍しています(2025 年度)。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 •医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC（内科系） を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療

	しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	•臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007)、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　山本浩一　副プログラム統括責任者　保仙直毅 研修委員会委員長　山本浩一
指導医数（常勤）	(2025 年度) 日本内科学会指導医 82 名 総合内科専門医 145 名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医、日本老年医学会老年科専門医、日本感染症学会専門医 JMECC ディレクター　0 名、JMECC インストラクター　8 名
外来・入院 患者数（内科系）	2025 年度実績　外来患者延べ数　196,432 名、退院患者数 6,680 名 （病院許可病床数　一般　1034 床、精神　52 床） 2025 年度　入院患者延べ数　99,135 名　（循環器内科 17,237 名、腎臓内科　6,325 名、消化器内科　18,867 名、糖尿病・内分泌・代謝内科　6,285 名、呼吸器内科　11,910 名、免疫内科　8,239 名、血液・腫瘍内科　13,614 名、老年・高血圧内科　4,440 名、脳神経内科　11,277 名、感染症内科 941 名）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設

7．大阪急性期・総合医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 •非常勤医員として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する施設 (大阪府こころの健康総合センター)が、病院と公園をはさんで隣にあります。 •ハランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 •病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	•JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 •指導医は 2026 年 4 月の時点で 31 名在籍しています。 •専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 •医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催 (2025 年度実績 医療安全 12 回、感染対策 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催 (2025 年度実績：7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型カンファレンスを各診療科にて年 2 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年度実績 9 演題)をしています。
指導責任者	大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者 林　晃正
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 32 名
外来・入院 患者数	2025 年実績：外来患者 1,167 名 (平均/日)、　入院患者 20,666 名/年
経験できる疾患群	専攻医登録評価システム (J-OSLER)にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当

	センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24 時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医認定施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本内科学会専門医制度研修施設 日本感染症学会研修認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 心血管インターベンション学会研修施設 植え込み型除細動器移植・交換術認定施設 両室ペースメーカー移植術認定施設 日本胆道学会指導施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本血液学会研修教育施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本腎デナベーション実施施設

8．国立病院機構大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 42 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務付けされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務付けます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 審査委員会（月 1 回）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
指導責任者	柴山浩彦 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 42 名 日本内科学会総合内科専門医 29 名　日本内科学会専門医（新制度）7 名 日本循環器学会専門医 12 名　日本消化器病学会専門医 14 名 日本肝臓学会専門医 9 名　日本呼吸器学会専門医 7 名 日本腎臓学会専門医 3 名　日本糖尿病学会専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 3 名　日本血液学会専門医 5 名

	日本神経学会専門医 7 名　　日本アレルギー学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 3 名　　日本消化器内視鏡学会専門医 11 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名
外来・入院 患者数	外来患者　年間　240,696 名　(1 ヶ月平均 20,058 人) 新入院患者 年間　15,793 名　(1 ヶ月平均 1,316 人)
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　　日本神経学会準教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設　　日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　　日本胆道学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設　　日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本腎臓学会研修施設　　日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　　日本血液学会血液研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院　　日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本感染症学会研修施設　　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

9．兵庫県立西宮総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室と最新の生成 AI・Wi-Fi インターネット環境があります. •地方公務員法第 22 条の 2 第 1 項第 2 号の規定に基づく会計年度任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています．また公舎等の利用が可能です. •当センターに常勤の臨床心理士が職員のメンタルヘルス相談を随時行っています. そしてメンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります. 希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。

	•院内にハラスメント委員会を設置しました. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり，18 時まで保育時間を延長する延長保育を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医が 52 名在籍しています（下記）. •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，ZOOM 配信により専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回・2 体分，2021 年度実施 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 69 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，神経，アレルギー，膠原病，呼吸器，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体，2021 年度 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 9 演題、2024 年度実績 4 演題、2025 年度実績 8 演題）をしています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています. ・治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ・臨床研究センターを設置しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英

	文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています. ・臨床研修センター（前期・後期）を設置しています.
指導責任者	楢原　啓之（ならはら　ひろゆき） 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立西宮総合医療センター（2026 年 7 月兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院が合併移転）は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪急電車今津線阪神国道駅から徒歩 1 分にあります. 兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、診療科間の垣根が低いチーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています. 兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部付属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. ・本プログラムは, 初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して, 質の高い内科専門医を育成するものです. 医療安全を重視し, 患者本位の医療サービスが提供でき, さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 52 名, 日本内科学会総合内科専門医 29 名・内科専門医 4 名, 日本消化器病学会消化器病専門医 14 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 12 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名, 日本循環器学会循環器専門医 5 名, 日本内分泌学会専門医 4 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 5 名, 日本糖尿病学会専門医 6 名, 日本呼吸器学会専門医 4 名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名, 日本神経学会認定神経内科専門医 3 名日本アレルギー学会専門医 2 名, 日本血液学会認定血液専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数	兵庫県立西宮病院:外来患者 12,312 名(1 ヶ月平均)　入院患者 9,695 名（1 ヶ月平均延数） 兵庫県立西宮病院：外来患者 55,297 名/年　入院患者 48,857 名/年 西宮市立中央病院：外来患者 26,001 名/年　入院患者 20,440 名/年
経験できる疾患群	軟部肉腫等のきわめて稀な疾患を含めて, 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. 毎年 JMECC 講習会を主催します. 特に緊急心臓カテーテル検査・PCI, 化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます.

経験できる地域医療・診療連携	救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます．2026 年 7 月には屋上にヘリポートを設置してドクターヘリを運用します．また急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 など

１０．西宮市立中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・西宮市立中央病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・各種ハラスメント相談窓口（セクシュアル＆パワーハラスメント対策委員会）が西宮市立中央病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。

認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 17 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（リウマチ・膠原病内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修委員会（管理室）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績９回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年実績２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（院内学術集会：西宮地域医療連携セミナー、院内感染対策講習会、南阪神肝疾患病診連携セミナー、西宮二次救急輪番循環器カンファレンスなど：2024 年度実績 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（管理室）が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上） で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度は実施なし、2024 年度２体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、インターネット（Wifi）、統計ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績２回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています。
指導責任者	小川 弘之 【内科専攻医へのメッセージ】 西宮市立中央病院は、阪神医療圏の

	中心的な急性期病院であり、地域に根ざした第一線の病院でもあります。近隣医療圏、大阪医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師になられるよう、また学究的な医師となられるように指導させていただきます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 10 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名、 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 383 名（1 日平均） 入院患者 112 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、 日本リウマチ学会教育施設、

１１．和歌山労災病院

認定基準 【整備基準 24】 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人労働者健康安全機構の常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（衛生委員会）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地外に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 ２）専門研修プログラムの環境	・内科系指導医は 12 名在籍しています。 ・基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 ３）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 11 分野以上）で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 ４）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表しています。
指導責任者	若﨑　久生 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は和歌山市から大阪の南部を医療圏とする総合病院で、近年初期研修医の応募が増加しています。本プログラムにおいて内科専攻医は、豊富な臨床経験を持つ指導医の下で、内科領域全般にわたる診療能力の習得を通して、知識や技能はもとより、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としての専門性と探究心を有する医療

	実践者に成長して頂きたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医３名、日本消化器病学会指導医４名、 日本糖尿病学会指導医３名、日本内分泌学会指導医２名、 日本消化器内視鏡学会指導医１名、日本内視鏡学会指導１名、 日本肝臓学会指導医１名、
外来・入院患者数 (内科系)	外来延患者　　5,277 名（１ヶ月平均） 入院延患者　　2,262 名（１ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本胆道学会指導施設 日本気管食道科学会研修施設　など

１２．松江赤十字病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師（正職員）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。24 時間 365 日対応しており、０歳（生後２ヶ月）から小学校就学前まで入所可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 24 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療倫理０回（予定していたが悪天候のため中止）、医療安全２回、感染対策２ 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を開催（2024 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器内科、循環器内科、内分泌内科、腎臓内科、呼吸器内科、血液内科、神経内科、救命救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 1 演題）を発表しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 当院は松江安来２次医療圏の基幹病院として、心、脳血管疾患をはじめとする３次救急医療を担うほか、がん拠点病院として広くがん診療にたずさわっています。内科系には総合診療科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、腎臓内科、消化器内科、脳神経内科、呼吸器内科、循環器内科がそろっておりひろく内科を学べるとと

	もに、それぞれの領域での高度な専門的研修が受けられます（一部サブスペシャルティとの並行研修可能）。また災害拠点病院としての機能を持ち、DMAT や赤十字救護班を災害地へ派遣し急性期から復興期まで息の長い災害救護を支えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、 日本消化器病学会専門医 10 名、日本循環器学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会専門医 4 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 6 名、 日本腎臓学会専門医 1 名、日本血液学会専門医 1 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名　　ほか
外来・入院 患者数	外来患者　20,324 名 入院患者　14,001 名（2024 年度　延数）
経験できる疾患群	一部の稀な疾患を除き、研修手帳掲載のほとんどの症例を経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳掲載のほぼ全てを経験できますが、JMECC については当院では開催しておらず他施設での受講を支援します。
経験できる地域医療・診療連携	多職種とチーム医療をしつつ、日頃の診療を通じて活動を行ったり、地域の医療機関との症例検討会などを通じて、病診・病病連携を実際に学ぶことができます。
学会認定施設 （内科系）	日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設　　他

１３．隠岐広域連合立隠岐病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・臨床研修病院の協力型施設です。 ・院内 Wi-Fi 環境が整備されています。 ・常勤医師として労務環境、処遇が整備されています。 ・メンタルヘルス、ハラスメントに対応する担当者を配置しています。 ・隣接する院内保育所にて夜間・病児保育を行っています。 ・当直室があり、休憩室として利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・研修プログラム管理者が基幹施設に設置される研修委員会と連携を図ります。 ・医療安全、感染対策講習会を定期に開催しています。 ・院内、院外カンファレンスを開催しています。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全分野で定常的に専門研修が可能です。 ・70 疾患群の概ね全疾患について研修できます。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	・学会参加は指定回数内の補助あり。
指導責任者	加藤一朗
指導医数 （常勤医）	日本プライマリケア連合学会認定指導医 1 名 ・隠岐病院は島根半島から約80ｋｍの日本海に位置する隠岐諸島のうち、島後唯一の病院です。離島という交通面のハンデはありますが、島内でできるだけ多くの医療が完結できるよう日々精進しています。島外医療機関との教育的な連携を推進しており、Ｗｅｂを利用したカンファレンスを充実させていく予定です。
外来・入院患者数	総外来患者数（実数）39,469 名/年間 総入院患者数（実数）1,204 名/年間
経験できる疾患群	・common diseaseから重症例まで幅広く経験することが可能です。ほとんどの疾患に対する医療を島内で完結することができます。高齢化率も高く、高齢者特有の疾患、病態を経験することもできます。

経験できる 技術・技能	・外来診療、入院診療、在宅医療に必要な技術、技能を経験することができます。内視鏡については専門医による指導を受けることもできます。
経験できる地域 医療・診療連携	・在宅医療に力を入れており、訪問診療、在宅看取りを経験することができます。地域医療の展開では、多くの職種と顔を合わせて協議することが多く、地域医療、診療連携における各職種の役割を学ぶことができます。
学会認定施設 （内科系）	

１４．公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています。（2026 年 4 月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4）学術活動の環境	・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本　久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 29 診療科・10 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医

	療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 20 名、 日本内科学会総合内科専門医 20 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会専門医 5 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会専門医 1 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、 日本透析医学会専門医 1 名、 日本老年学会老年病専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院 患者数（内科系）	外来患者 384 名（一日平均）　入院患者 146 名（一日平均） (2025 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設

	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医制度研修施設 続きあり 日本胆道学会指導施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会専門医準教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科） 日本認知症学会専門医制度教育施設 （2026 年 4 月 1 日現在）

１５．市立豊中病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります. ·豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が病院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 29 名在籍しています（2026 年 4 月 1 日現在）. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、北摂血液疾患懇話会、北摂内視鏡研究会、大阪腎疾患研究会、大阪大学内分泌・代謝研究会、豊中糖尿病研究会、豊中胃内視鏡勉強会、はーと会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体、2023 年度 7 体、2024 年度 8 体、2025 年度 4 体）を行っていま

	す.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験審査委員会を設置し，定期的に治験審査委員会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています（2025 年度実績 8 演題)。
指導責任者	小杉　智（内科主任部長、血液内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤内科医） 2025 年 4 月 1 日現在	日本内科学会指導医 28 名，日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本専門医機構認定（新）内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本肝臓病学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 3 名， 日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本内視鏡学会専門医 5 名
外来・入院患者数　（内科系）	外来延患者数　109,071 名/年（2025 年度） 入院件数　84,470 件/年（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など

１６．大阪警察病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型，協力型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課厚生係）があります ・ハラスメント窓口（人事課）が整備されています ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩コーナー，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています ・院内に病児保育室があり，利用可能です ・託児手当があり，利用可能です（子が 3 歳に達する迄）
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています(2026 年 4 月現在) ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）），副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修管理室を設置します ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実

	績 16 回, 2025 年度実績 16 回, 2026 年度実績 11 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2025 年度実績 1 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 13 回,2024 年度実績 13 回, 2025 年度実績 9 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕をあたえます ・地域参加型のカンファレンス(天王寺区医師会・病院合同講演会年 1 回, 臨床医講習会年 4 回, 各内科診療科地域連携講演会年 5 回前後, 夕陽丘緩和ケア連絡会年 3-4 回など)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度実績 1 回, 2024 年度実績 1 回、2025 年度実績 1 回)を義務付け, そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門医研修管理室が対応します
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 56 以上の疾患群)について研修できます ・専門研修に必要な剖検(2023 年度実績 10 体, 2024 年度実績 6 体, 2025 年度実績 7 体)を行っています
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室, OA ルームなどを整備しています ・倫理委員会を設置し, 定期的(2023 年度実績 12 回, 2024 年度実績 12 回, 2025 年度実績 12 回)に開催しています ・治験管理室を設置し, 定期的に受託研究審査会を開催(2023 年度実績 11 回, 2024 年度実績 11 回, 2025 年度　回実績)しています ・日本内科学会講演会(および内科学会ことはじめ)あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2023 年度実績 5 題, 2024 年度実績 5 題)をしています ・学会等への参加は出張扱いとし, 出張費を支給しています(当院規定による)
指導責任者	飯島　英樹 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪警察病院は, 大阪府大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり, 二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行

	い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します． 地域医療における救急診療の要として，「断らない医療をモットー」に二次医療圏のみならず，大阪府下・近隣府県の救急疾患・急性期疾患の医療に応需しております． 内科専門医外来，ER・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて，初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を，また，高齢者医療，慢性期疾患，癌疾患などの継続的な診療など，多数の症例を経験することができます．一方，入院症例においては，入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に，診断・治療の流れを経験することで，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会総合内科専門医 35 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名，日本肝臓学会肝臓専門医 9 名， 日本循環器学会循環器専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 5 名， 日本内分泌学会専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 6 名　ほか （2026 年 4 月現在）
外来・入院患者数 （2025 年度実績）	（病院全体）外来患者 34,639 名（1 ヶ月平均），入院患者 17,934 名（1 ヶ月平均） （うち内科系）外来患者 21，803 名（1 ヶ月平均），入院患者 12，483 名（1 ヶ月平均））
経験できる疾患群	きわめてまれな疾患をのぞいて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診，病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会　専門医制度認定教育病院 日本感染症学会　認定研修施設 日本肝臓学会　認定医制度認定施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本救急医学会　専門医指定施設 日本呼吸器学会　認定施設 日本循環器学会　専門医認定研修施設

	日本消化器内視鏡学会 専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会 認定施設 日本神経学会 専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌学会 内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 など

１７．市立吹田市民病院

認定基準 【整備基準23】 １）専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •医師（非常勤職員）として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室職員、公認心理師）があります。 •ハラスメントに適切に対処するための部署（ハラスメント窓口担当）があります。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 •敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 ２）専門研修プログラムの環境	•指導医は24名在籍しています。 •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（総合内科専門医かつ指導医）、プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催（2025年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そ

	のための時間的余裕を与えます。 •日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 ３）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 •70疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 •専門研修に必要な剖検（2023年度4体、2024年度4体、2025年度4体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 ４）学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 •倫理委員会を設置し、定期的に開催（年4回）しています。 •治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（月１回）しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	火伏俊之 【内科専攻医へのメッセージ】 市立吹田市民病院は、大阪県豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医20名 日本消化器病学会消化器専門医8名、日本肝臓病学会専門医7名 日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医3名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医3名、 日本神経学会神経内科専門医5名、日本アレルギー学会専門医（内科）1名、日本リウマチ学会リウマチ専門医2名 ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者16,534名（1か月平均）　新入院患者871名（1か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設

	日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書 臨床研修認定病院 など

１８．箕面市立病院

（2026 年 4 月 1 日現在、患者数は 2025 年度）

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •常勤職員として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部経営人事室）があります。 •ハラスメント委員会が整備されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 •敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 9 名在籍しています。 •内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 •医療倫理、医療安全、感染対策講習会等を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕

	を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回［当院 1 回、他院 4 回］）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会、研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3）診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 •専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 体、2024 年度実績 0 体、2023 年度実績 2 体、2022 年度実績 2 体、2021 年度実績 3 体、2020 年度実績 6 体、2019 年度実績 12 体、2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 8 体）を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4）学術活動の環境	•倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2025 年度実績 4 回）。 •治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	森谷　真之 【内科専攻医へのメッセージ】 箕面市立病院は、豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院および、豊能医療圏および阪神地域の医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本肥満学会肥満症専門医 1 名、日本専門医機構認定内科専門医 4 名
外来、入院患者数（内科系）	外来延患者数 40,061 名/年（2025 年度） 入院延患者数名 34,015/年（2025 年度）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術、技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働認定施設 など

１９．市立池田病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Ｗｉ-Ｆｉ環境があります. ・池田市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります. ・ハラスメント対策委員会が池田市役所に整備されています. ・女性専攻医向けの安全な、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. • 敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。（2026 年 4 月現在） •内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績計 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	•CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回、2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表（2021年度実績7演題、2022年度実績11演題）をしています.
指導責任者	石田　永(1名) 【内科専攻医へのメッセージ】 市立池田病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医23名、日本内科学会総合内科専門医21名,日本消化器病学会消化器専門医9名，日本肝臓学会肝臓専門医6名、日本循環器学会循環器専門医4名、日本内分泌学会内分泌専門医3名、日本糖尿病学会糖尿病専門医3名，日本腎臓学会腎臓専門医3名，日本呼吸器学会呼吸器専門医5名，日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医3名ほか
外来・入院 患者数(内科系)	外来延患者数　343人/日　新入院患者数410人/月　（2025年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある15領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	地域医療支援病院 厚生労働省臨床研修指定病院（医科・歯科） 大阪府がん診療拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver.2.0） 卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本炎症性腸疾患学会指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本膵臓学会認定指導医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設

	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本緩和医療学会認定研修施設

2026 年 3 月現在

２０．医療法人川崎病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •医療法人川崎病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 •各種ハラスメント相談窓口が医療法人川崎病院に整備されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 •敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医は 16 名在籍しています. •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（総合診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修室を設置します. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 6 回　適宜 e-learning 実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2025 年実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（院内学術集会，院内感染対策講習会，地域連携セミナー，兵庫区循環器研究会，兵庫区消化器連携セミナー，心不全カンファレンスなど(2025 年度実績 12 回)を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. •70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）.

	•専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室，インターネット（Wi-fi），統計ソフトウェアなどを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	飯田正人 【内科専攻医へのメッセージ】 医療法人川崎病院は、兵庫県神戸医療圏の中心的な急性期病院であり、神戸医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名 日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本呼吸器学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者 7,150 名(1 か月平均)　入院患者 6,712 名(1 か月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

	日本消化管学会暫定指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本血液学会認定医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本動脈硬化学会専門医教育病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設　など

２１．公益社団法人 日本海員掖済会 神戸掖済会病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸掖済会病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります。 ・各種ハラスメント相談窓口が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直 室が整備されています。 ・敷地外ですが、院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 5 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（循環器内科部長・内科学会指導医)、プログラム管理者（循環器内科医長・内科学会指導医・総合内科専門医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 6 回　適宜 e-learning 実施）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（検体数に準じる）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・他院内学術集会、院内感染対策講習会、地域連携セミナーを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。

	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます （上記)。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、インターネット（Wi-fi)、統計ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　伊達基郎
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 日本神経内科学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者数 99,985 名、入院患者数 5,682 名（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医研修基幹施設 日本内科学会専門医研修連携施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本不整脈心電学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本専門医機構総合診療領域基幹施設

22. 近畿大学奈良病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が当院に設備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に院内保育園があり、医師の利用が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 14 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理２回、医療安全２回、感染対策２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績４回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績１回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を含め、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表（2014 年度実績１演題）をしています。今後内科研修基幹病院として、年間３演題以上の発表をめざします。
指導責任者	花本　仁 【内科専攻医へメッセージ】

	近畿大学奈良病院は、近畿大学病院、京都大学医学部附属病院や奈良県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修終了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。単に内科医を育成するだけではなく、医療安全を従事し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。また、奈良病院の医師の出身大学も様々であり、親しみやすい環境が提供でき、各内科系診療科とのコンサルトも容易であり、充実した研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 29 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、 日本循環器学会循環器専門医 7 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、 日本感染症学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 2 名、 日本輸血学会専門医１名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医１名、 日本透析医学会専門医１名、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医１名、 日本超音波学会専門医１名、 日本心身医学会内科専門医１名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医１名、 日本老年医学会専門医１名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医２名、 日本精神神経学会精神科医専門医１名
外来・入院患者数	外来患者数：830.8 人（日平均）、 入院在院患者数：318.5 人（日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、54 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設 日本認定臨床腫瘍学会認定研修施設 非血縁間骨髄採取・移植認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本感染症学会研修施設 呼吸療法専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本透析医学会専門医認定施設 不整脈専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 小児科専門医研修施設 小児循環器専門医修練施設 日本腎臓学会研修認定施設　　など

23.兵庫医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 ・心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。 ・隣接地の保育園に当院専用枠が 50 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 44 名在籍しています。 ・本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催しています。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に、卒後臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・兵庫医科大学病院には 10 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。 ・専門研修に必要な剖検数を行っています。

認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。
指導責任者	木島　貴志【内科専攻医へのメッセージ】兵庫医科大学病院は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という特性から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 58 名 日本内科学会総合内科専門医 59 名 血液専門医 8 名 日本リウマチ学会専門医 9 名 日本糖尿病学会認定専門医 11 名 日本内分泌学会専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 24 名 日本消化器内視鏡学会専門医 29 名 日本呼吸器学会専門医 9 名 日本神経学会専門医 4 名 日本腎臓学会認定専門医 9 名 日本透析医学会認定専門医 11 名 日本循環器学会専門医 18 名
外来・入院患者数（2025 年度実績）	外来患者数：213,815（延人数）・入院患者数：104,879（延人数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。

学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会 日本がん治療認定医機構 日本リウマチ学会 日本肝臓学会 日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本循環器学会 日本消化器内視鏡学会 日本消化器病学会 日本心血管インターベンション学会 日本緩和医療学会 日本静脈経腸栄養学会 日本動脈硬化学会 日本不整脈学会 日本神経学会 日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会 日本糖尿病学会 日本透析医学会 日本頭痛学会 日本内科学会 日本内分泌学会 日本脳卒中学会 日本輸血・細胞治療学会 日本臨床細胞学会 日本臨床腫瘍学会 日本臨床神経生理学会 日本老年医学会 日本 IVR 学会 日本カプセル内視鏡学会 日本高血圧学会 日本消化管学会 日本胆道学会

りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会名簿

（令和８年４月現在）

りんくう総合医療センター

倭　　正也（プログラム統括責任者 兼 研修委員会委員長、
総合内科・感染症内科、膠原病内科、内科救急分野責任者）

髙山　晃彦（臨床研修センター参事、総務監）

習田　　龍（循環器内科分野責任者）

大槻　朋子（糖尿病・内分泌代謝内科分野責任者）

重松　　隆（腎臓内科分野責任者）

森山あづさ（呼吸器内科、アレルギー分野責任者）

中村　雄作（神経内科分野責任者）

大西　　亨（消化器内科分野責任者）

釜江　　剛（血液内科分野責任者）

連携施設担当委員

大阪労災病院	山内　　淳先生
大阪南医療センター	大島　至郎先生
堺市立総合医療センター	西田　幸司先生
市立貝塚病院	中　　聡夫先生
近畿中央呼吸器センター	橘　　和延先生
大阪大学医学部附属病院	保仙　直毅先生
大阪急性期・総合医療センター	林　　晃正先生
大阪医療センター	三田　英治先生
兵庫県立西宮病院	楢原　啓之先生
西宮市立中央病院	小川　弘之先生
和歌山労災病院	若﨑　久生先生
松江赤十字病院	大居　慎治先生
隠岐病院	加藤　一郎先生
日本生命病院	橋本　久仁彦先生
市立豊中病院	小杉　　智先生
大阪けいさつ病院	飯島　秀樹先生
吹田市民病院	火伏　俊之先生
箕面市立病院	森谷　真之先生
市立池田病院	石田　　永先生
川崎病院	松田　守弘先生
神戸掖済会病院	伊達　基郎先生
近畿大学奈良病院	花本　　仁先生
兵庫医科大学病院	木島　貴志先生

オブザーバー

内科専攻医代表１
内科専攻医代表２